

学部・学年	小学校・第2学年
障害の種類・程度や状態等	注意欠陥多動性障害傾向。注意力散漫、衝動性が強い
事例の概要	・周囲の状況を理解し、落ち着いて行動することができ、気持ちを切り替えようとすることができるように指導した事例

①障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について情報収集

- ・周囲の状況を十分に把握せずに行動する結果、状況に合わせて行動することが難しい。
- ・音や見たものが気になってしまい、集中できないことがある。
- ・こだわりが強く、自分の思いが強くなるとかかわりが一方的になることがある。
- ・1番へのこだわりも強い。
- ・場を仕切ってしなうことがある。
- ・スキップがぎこちなく踏ん張ることができにくい。体感が弱い。
- ・手先の不器用さがある。
- ・気になることがあると衝動的に話したり、動いたりする。
- ・日常生活では、衝動性や注意力が散漫になりやすいことから言語刺激のみでは話がずれていってしまうことがある。
- ・整理整頓が苦手。
- ・静かで少人数の場面では、課題に注意を向け取り組め、力を発揮することができる。
- ・指示はよく聞くことができ理解は早い。
- ・課題を出すときは質問の内容を細分化し、短い回答で済むような問いかけが有効。
- ・事前にルールを決めたり、見通しを伝えることが有効。

②-1 収集した情報を自立活動の区分に関して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	・静かな環境であれば力を発揮することができる。 ・やりたいことを優先するため、気持ちの切り替えに課題がある。	・こだわりが強く、会話が一方的になりやすい。 ・	・聞くことは得意。 ・周りの物に気を取られることが多い。	・踏ん張ることができない。 ・線をはみ出さずに書くことなど手先に不器用さがある。	・相手の立場を意識することが難しく、自分の興味を優先してしまう。

②-2 収集した情報を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

- ・相手の思いをくみ取ることに課題がある。
- ・やらなければいけないことは分かっているが、自分の興味を優先することから集中力を維持できなかったりする。
- ・手先の不器用さがあり、時間内に作業を終わらせることが難しい。
- ・注意が散漫になってしまい、片付けや準備の順序がバラバラになってしまったり次の行動に移せないことがある。
- ・指示を聞き取り素早く理解することができる。

②-3 収集した情報を〇〇年後の姿の観点から整理する段階

- ・保護者は、集団生活の中での切り替えが難しく、興味があることに集中してしまう傾向があるので状況を理解し、状況に応じた対応や判断ができるか心配している。
- ・他者の話を聞くことや、話す内容を理解してやりとりするなど、状況に応じたコミュニケーションの取り方を段階的に身に付ける必要がある。
- ・衝動的に動いてしまう自分の特性を理解し、優先順位の付け方や見通しのもち方、気持ちの切り替え方を身に付ける必要がある。

③ ①をもとに②-1, ②-2, ②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

- ・気持ちが落ち着かなくなったときに、その状態を本人なりに収める方法を身に付けていない。(心)
- ・視覚から情報を捉えて推理することが得意で、学習に活用できる。(環)
- ・こだわりが強く、周りに目を向けることが難しい。(人)
- ・相手の話を最後まで聞き、会話を成立させることが難しい。(コ)

<p>④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを落ち着かせる方法や、自分の気持ちと折り合う方法を身に付けていないことから、苦手なことに向き合うことが難しくなっている。自分の気持ちと向き合い自己理解を深めたり、様々な対処法を知り実践したりすることで、自分の気持ちと少しずつ折り合えるようになることが大切である。</li> <li>・優先順位を考え見通しをもつことで、自分の衝動を抑え、周りの状況に合わせる大切である。</li> <li>・これらの学習においては、自分の興味だけではなく、気持ちを落ち着かせ友達と楽しく関わることができるようになることや、指示を素早く理解することができる強みを生かすような指導の仕方が望ましい。</li> </ul>
---

<p>課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として</p>	<p>⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の状況を理解し、落ち着いて行動することができ、気持ちを切り替えようとする事ができる。</li> </ul>
----------------------------------	---

<p>指導目標を達成するために必要な項目の選定</p>	<p>⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階</p>					
	<p>健康の保持</p>	<p>心理的な安定</p> <p>(1)情緒の安定に関する事。 (2)状況の理解と変化への対応に関する事。</p>	<p>人間関係の形成</p> <p>(3)自己の理解と行動の調整に関する事。</p>	<p>環境の把握</p>	<p>身体の動き</p> <p>(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。</p>	<p>コミュニケーション</p> <p>(5)状況に応じたコミュニケーションに関する事、</p>

<p>⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〈気持ちを切り替えて行動できる〉(心)(1)と(人)(3)とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧アである。</li> <li>・〈周囲の状況を見ながら活動できる〉(心)(2)と(コ)(5)とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧イである。</li> <li>・〈作業効率をあげることができる〉(心)(2)と(身)(5)とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧ウである。</li> </ul>
---

<p>選定した項目を関連付けて具体的な指導目標を設定</p>	<p>⑧ 具体的な指導内容を設定する段階</p>		
	<p>ア 優先順位や時間を意識し、周りに合わせた行動ができるようにする。</p>	<p>イ 小集団においては周囲の状況を見ながら活動できる力を付けられるようにしていく。</p>	<p>ウ 作業のやり方へのこだわりを和らげたり、指導者の手本を模倣したりするして、手指の巧緻性を高める。</p>

学部・学年	小学校・第4学年
障害の種類・程度や状態等	自閉症傾向。こだわりが強い。
事例の概要	他者とのコミュニケーションを苦手としている児童に、やり取りの仕方を指導した事例

①障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について情報収集
<ul style="list-style-type: none"> <li>・偏食がある。</li> <li>・手いじりが止まらない。</li> <li>・聞くのが苦手。</li> <li>・用具を操作するのに苦手さがある。</li> <li>・苦手なものに対して強く拒絶。</li> <li>・人前で発表できない。</li> <li>・困ったときに、助けを求めることができにくい。</li> <li>・こだわりが強い。自分の世界に入り込む。</li> <li>・直前のスケジュール変更が苦手。</li> <li>・リハーサルが有効。</li> <li>・記憶力が良い。視覚的に理解し、推理することが得意。</li> </ul>

②-1 収集した情報を自立活動の区分に関して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・偏食がある。	・苦手なものに対して強く拒絶。 ・直前のスケジュール変更が苦手。 ・リハーサルが	・こだわりが強い。自分の世界に入り込む。	・聞くのが苦手。 ・記憶力が良い。視覚的に理解し、推理することが得意。	・手いじりが止まらない。 ・用具を操作するのに苦手さがある。	・人前で発表できない。 ・困ったときに、助けを求めることができにくい。

②-2 収集した情報を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やらなければいけないことは分かっているが、関心がないものについてなかなか取り組めなかったり集中力を維持できなかったりする。</li> <li>・自分の意見や考えを書くことが苦手であり、手をつけられない。また、人前で発表することが苦手である。</li> <li>・学校のきまりを守って生活できるが、全体の指示だけでは行動できないことが多く、個別の声掛けが必要である。</li> <li>・当番活動や毎日の決められた活動は理解すると行うことができる。</li> <li>・気分が落ち込むとうまく自分をコントロールできなくなり、課題に取り組めなかったりみんなと一緒に行動ができなかったりする。</li> <li>・困っていることをそのままにしてしまい、自分から質問できない。</li> </ul>

②-3 収集した情報を〇〇年後の姿の観点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校進学を見据え、伝えたいことを整理して、必要な連絡・報告を行うことができる力を段階的に身に付ける必要がある。</li> <li>・他者の話を聞くことや、話す内容を理解してやりとりするなど、状況に応じたコミュニケーションの取り方を段階的に身に付ける必要がある。</li> <li>・困ったことに直面したときに、気持ちを落ち着かせたり、他者に援助を求めたりする方法を段階的に身に付ける必要がある。</li> </ul>

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちが落ち着かなくなったときに、その状態を本人なりに収める方法を身に付けていない。(心)</li> <li>・視覚から情報を捉えて推理することが得意で、学習に活用できる。(環)</li> <li>・こだわりが強く、周りに目を向けることが難しい。(人)</li> <li>・困ったことに直面したときに、他者に援助を求めることが難しい。(コ)</li> <li>・伝えたいことを整理して、話をするのが難しい。(コ)</li> </ul>

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

- ・気持ちを落ち着かせる方法や、自分の気持ちと折り合う方法を身に付けていないことから、苦手なことに向き合うことが難しくなっている。自分の気持ちと向き合い自己理解を深めたり、様々な対処法を知り実践したりすることで、自分の気持ちと少しずつ折り合えるようになることが大切である。
- ・合わせて、うまくいかなかったときに、周囲に援助を求めることができるよう意思表示の仕方を身に付けていくことが大切である。
- ・これらの学習においては、細部に着目することができることや、友達と楽しく関わることができていることや、決められたことは守れることなどの強みを生かすような指導の仕方が望ましい。

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として	⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階 苦手なものに対して気持ちを整え、自分の気持ちを周囲に伝えることができ
---------------------------	--

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階						
指導目標を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1)情緒の安定に関すること。 (2)状況の理解と変化への対応に関すること。	(3)自己の理解と行動の調整に関すること。		(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	(2)言語の受容と表出に関すること。

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

- ・〈困ったときに助けが求められるように〉(心)(1)と(コ)(2)とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧アである。
- ・〈苦手なことにも意欲的に取り組めるように〉(人)(3)と(身)(5)とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧イである。
- ・〈落ち着かない気持ちを収められるように〉(心)(1)(2)と(人)(3)とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧ウである。

選定した項目を関連付けて具体的な指導目標を設定	⑧ 具体的な指導内容を設定する段階	
	ア ロールプレイを行い、場面に応じた伝え方の練習を行うことで、自分の困っていることを周囲に伝えられるようにする。	イ 作業のやり方へのこだわりを和らげたり、指導者の手本を模倣したりするして、手指の巧緻性を高める。
		ウ 気持ちが不安定になったときには、その場を一時的に離れ、体を動かすなどして発散できるようにする。